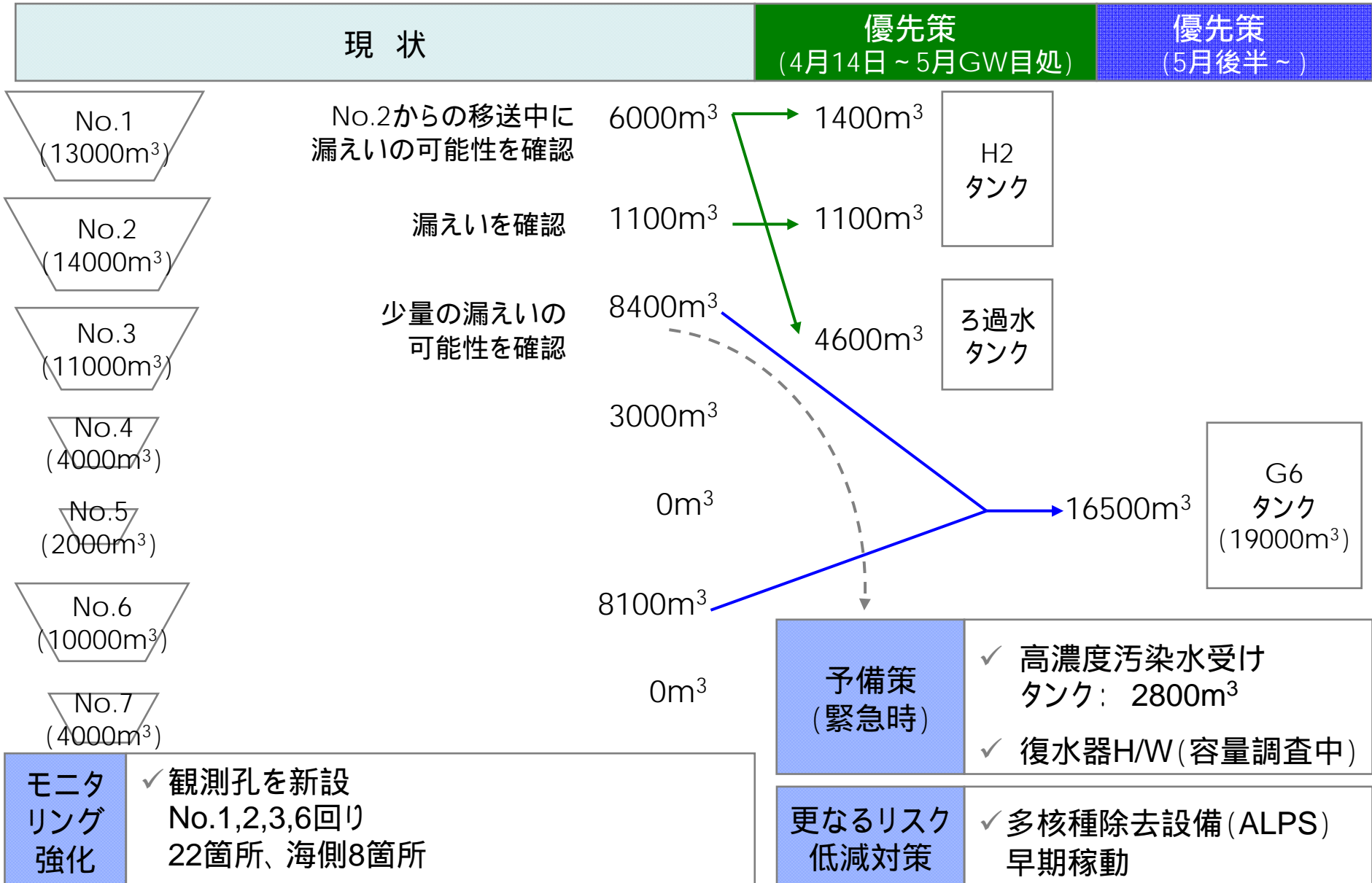


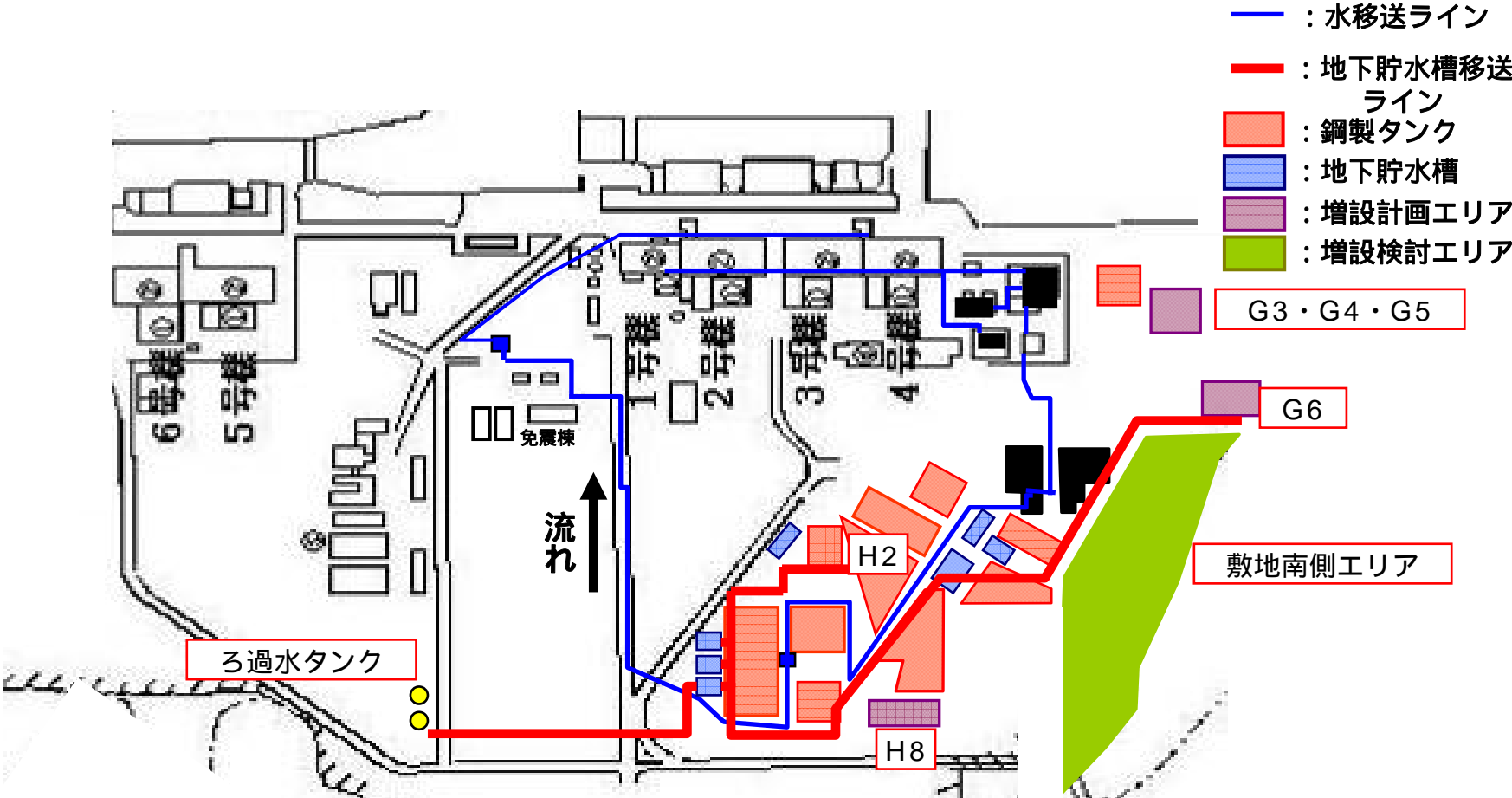
# 地下貯水槽の今後の移送計画について

資料 1

< 参考資料 >  
平成25年4月10日  
東京電力株式会社

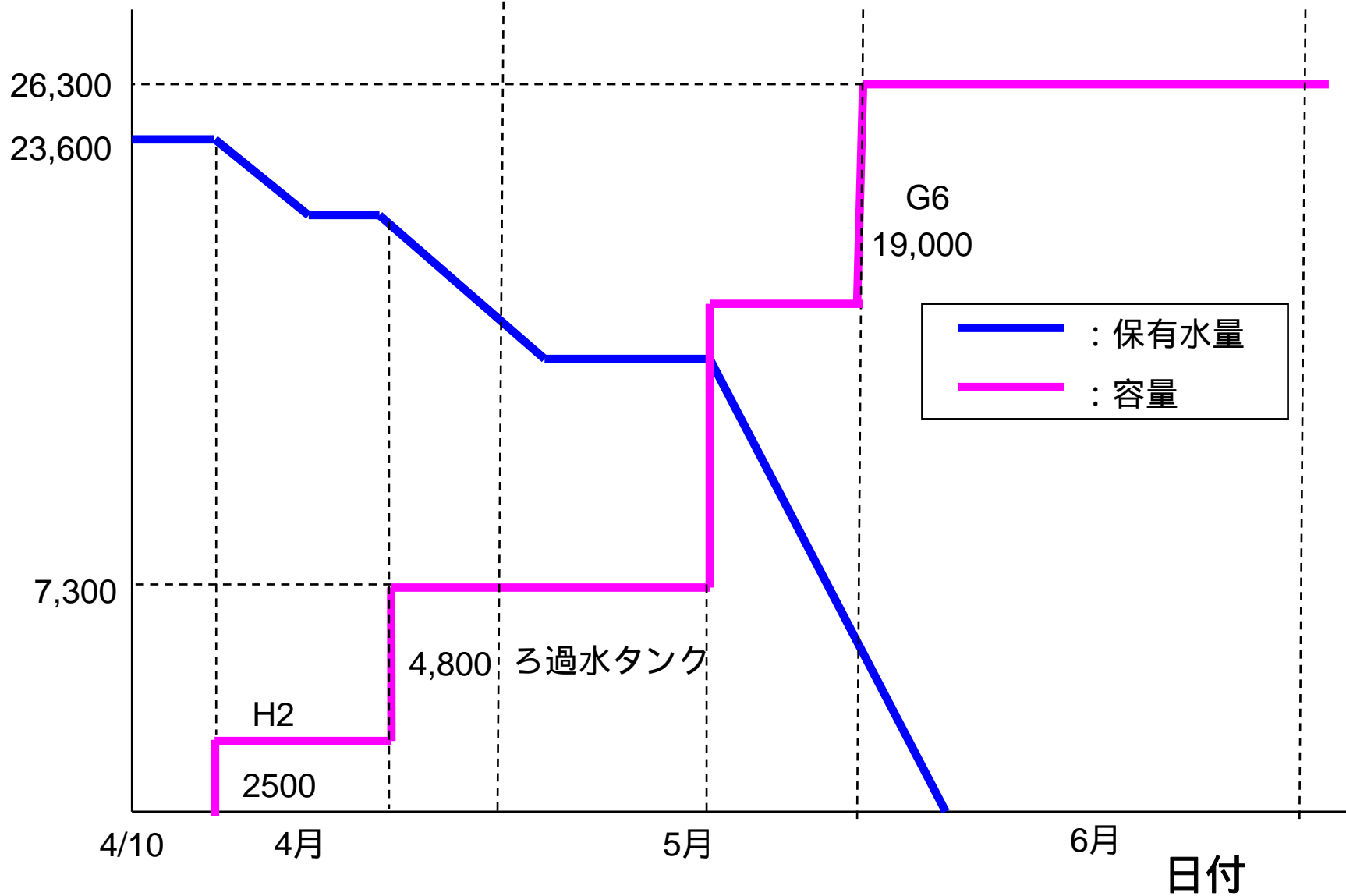


# 地下貯水槽移送先

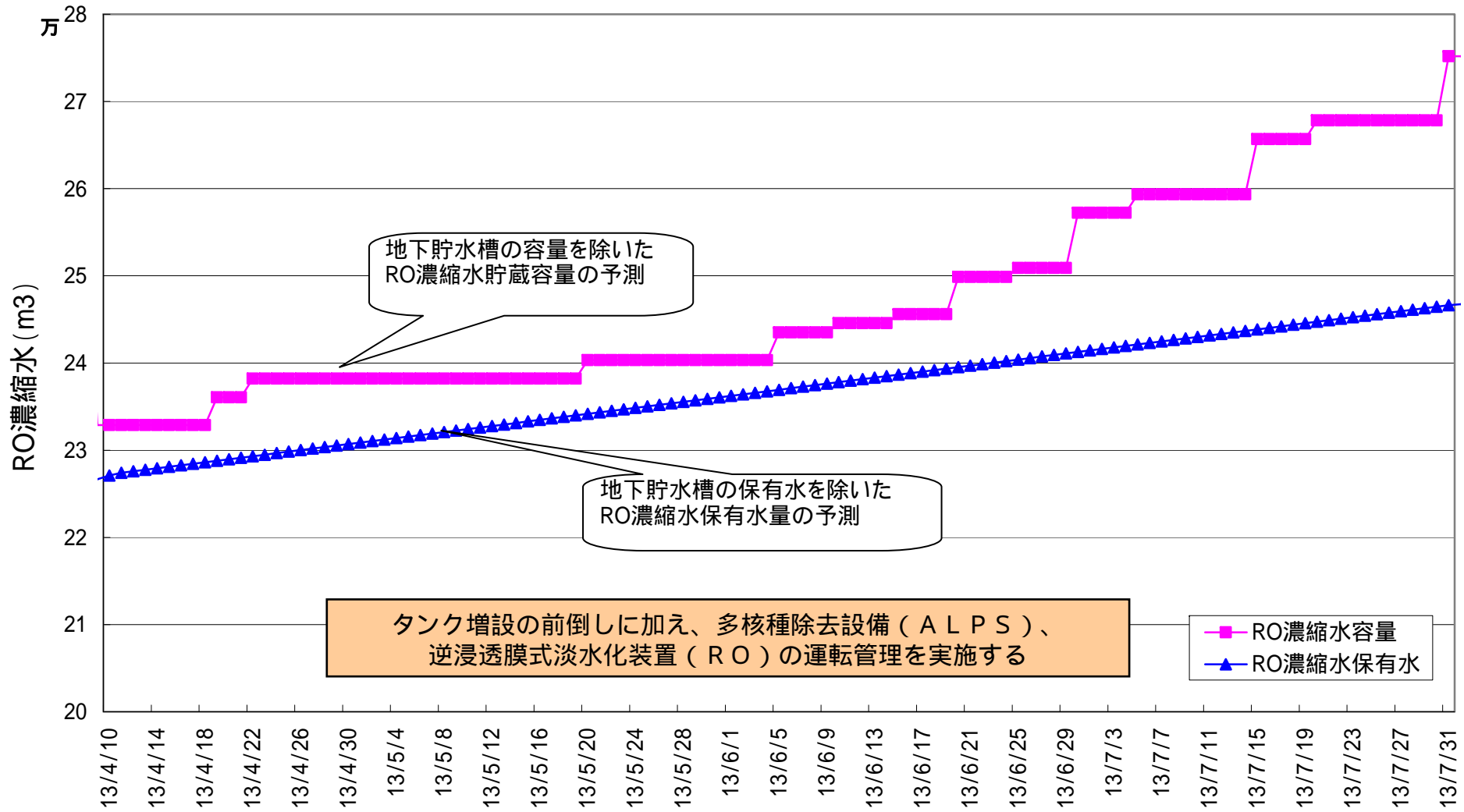


# 水バランスシミュレーション（地下貯水槽）

容量 (m<sup>3</sup>)



# 水バランスシミュレーション(RO濃縮水)



# 地下貯水槽からの汚染水漏えい拡散防止策

平成25年 4月 10日

東京電力株式会社

# 汚染水拡散防止策の目的と概要

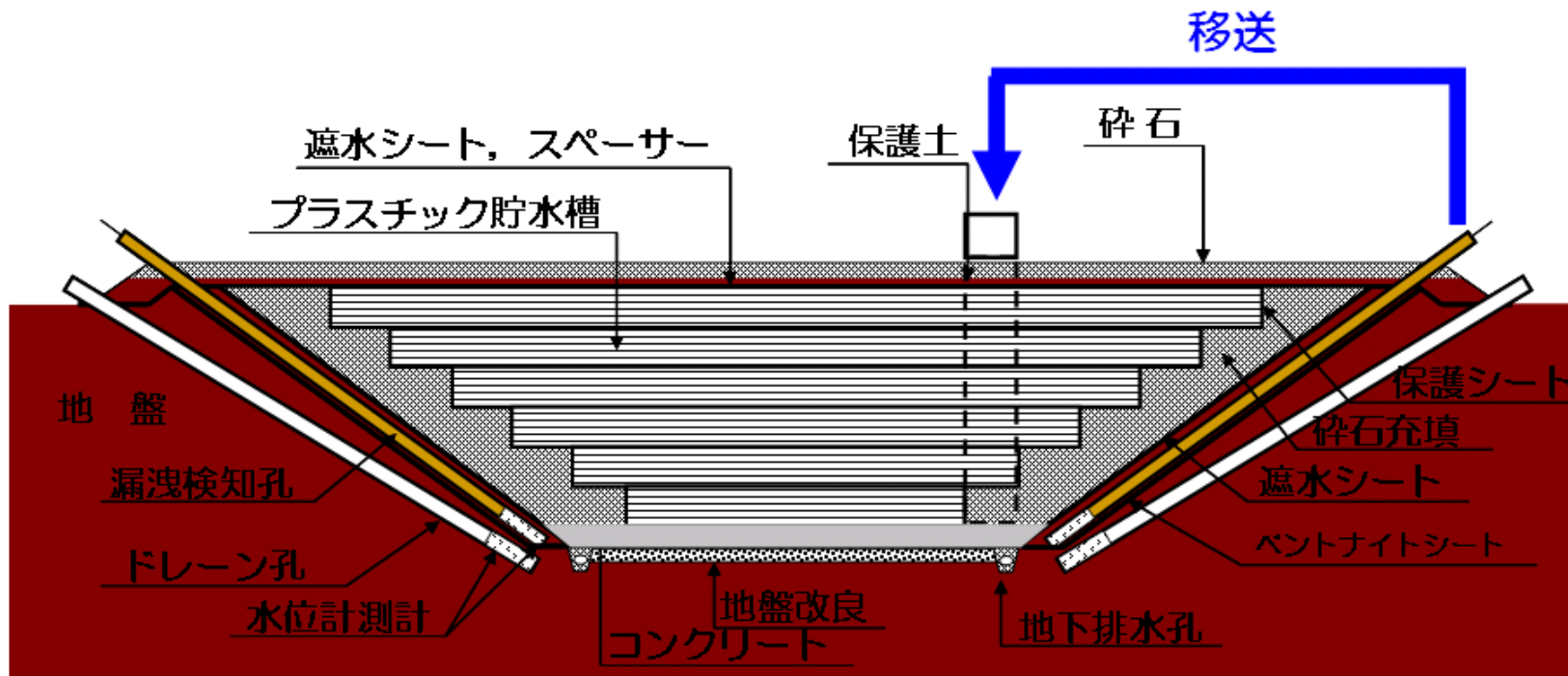
---

- 当面の対策(当該貯水槽を空にする迄の対策)として、汚染水の拡散を防止することを目的に、当該検知孔に小型ポンプを設置し、汚染水を貯水槽に戻す（4/10より実施予定）。

# 汚染水拡散防止策

## ■汚染水拡散防止策

- 現在、No.1、No.2地下貯水槽の漏えい検知孔内には漏えいした汚染水が存在する。
- 漏えい検知孔から周辺地盤への拡散防止のため、漏えい検知孔内の汚染水を回収し、地下貯水槽内に戻す。



# 実施工程

## ■概略工程表

実施項目	4月				
	10	11	12	13	~
No.1 地下貯水槽の拡散防止対策					
No.2 地下貯水槽の拡散防止対策					

注) 拡散防止対策は、各地下貯水槽の水移送完了まで継続



地下貯水槽からの汚染水漏洩に対する  
周辺環境への影響評価  
(周辺モニタリング計画)

平成25年 4月 10日

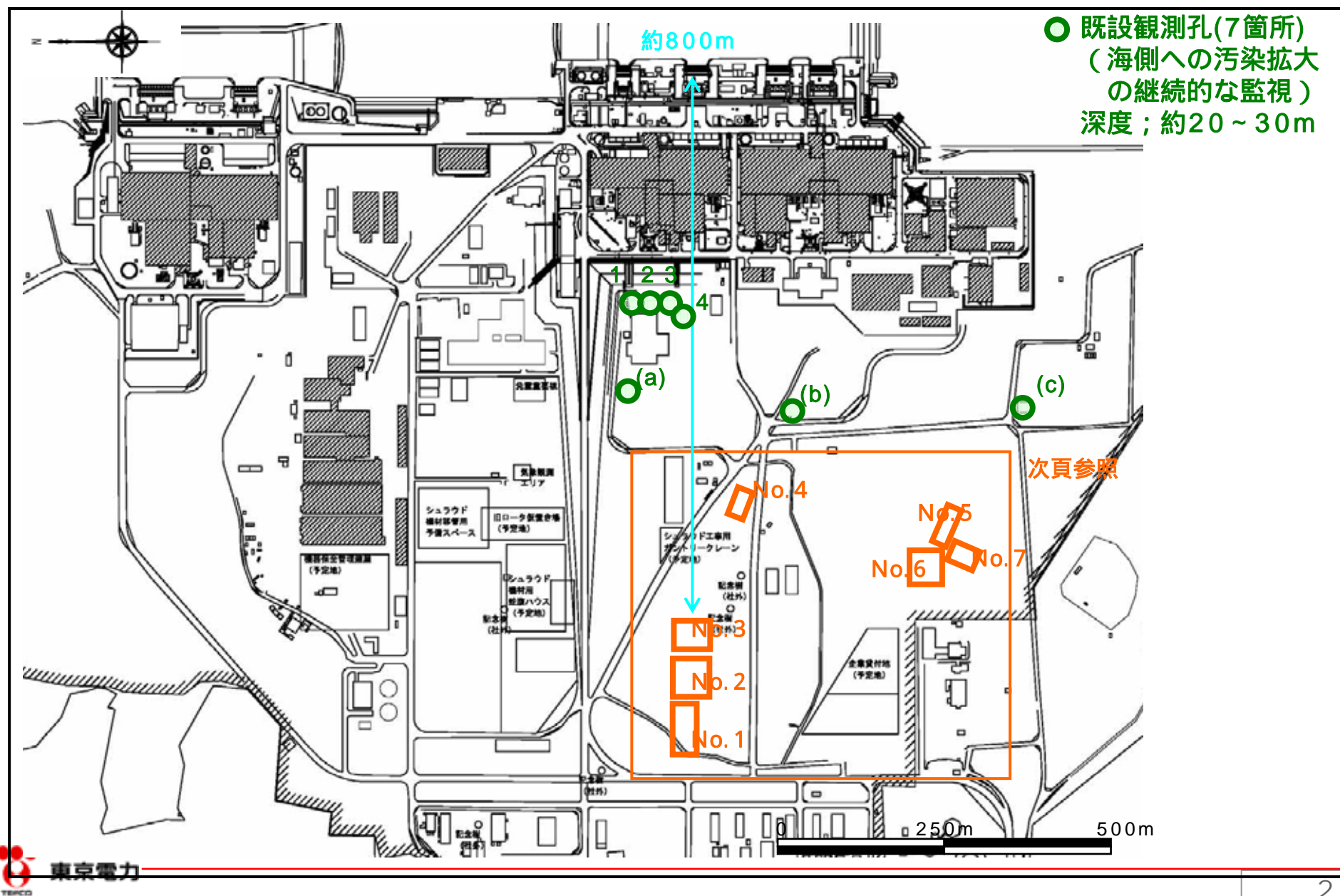
東京電力株式会社

# 調査目的

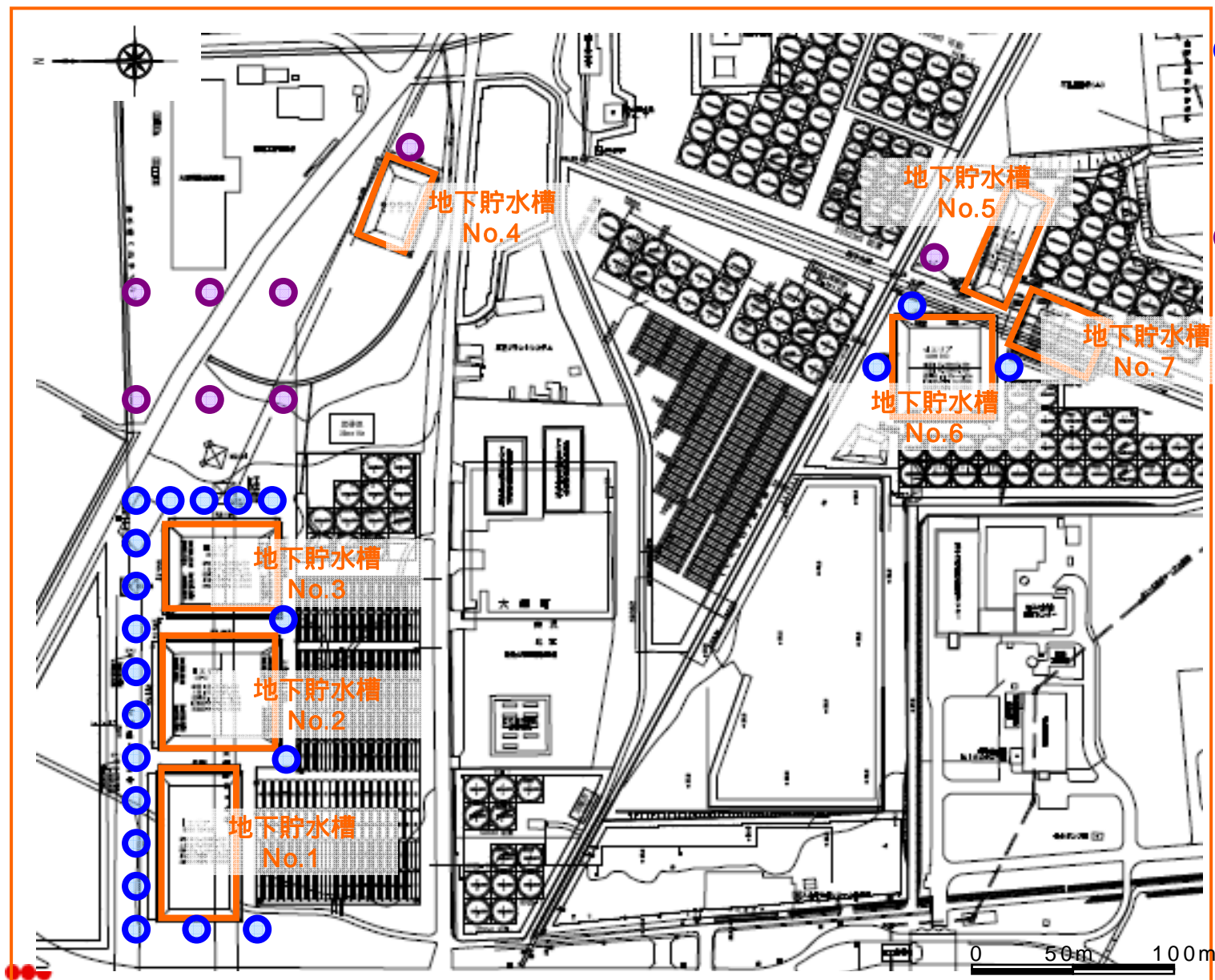
---

- 地下貯水槽周辺の汚染状況の把握及び海側への汚染拡大の継続的な監視

# 調査位置図（全体平面図）



# 調査位置図（詳細図）



- 新設観測孔(22箇所)  
(地下貯水槽周辺  
の汚染状況の把握)  
深度；約5～15m
- 新設観測孔(8箇所)  
(海側への汚染拡大  
の継続的な監視)  
深度；約20～30m

現場状況・地下埋設物により位置・本数等に変更の可能性あり

# モニタリング項目

---

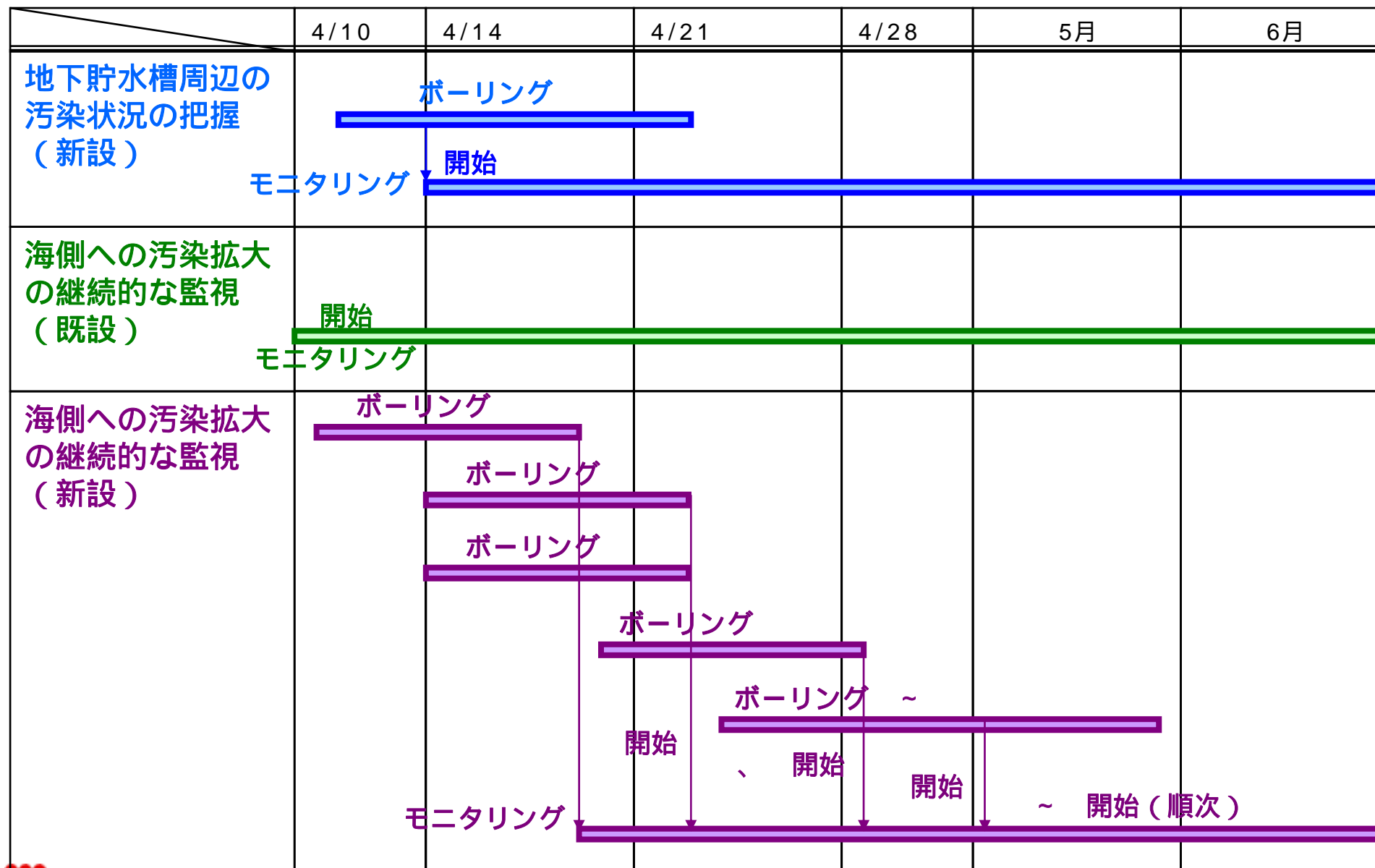
## 地下貯水槽周辺の汚染状況の把握（新設）

- 分析項目  
塩素濃度、全
- 分析頻度  
当面の間、1回/日実施

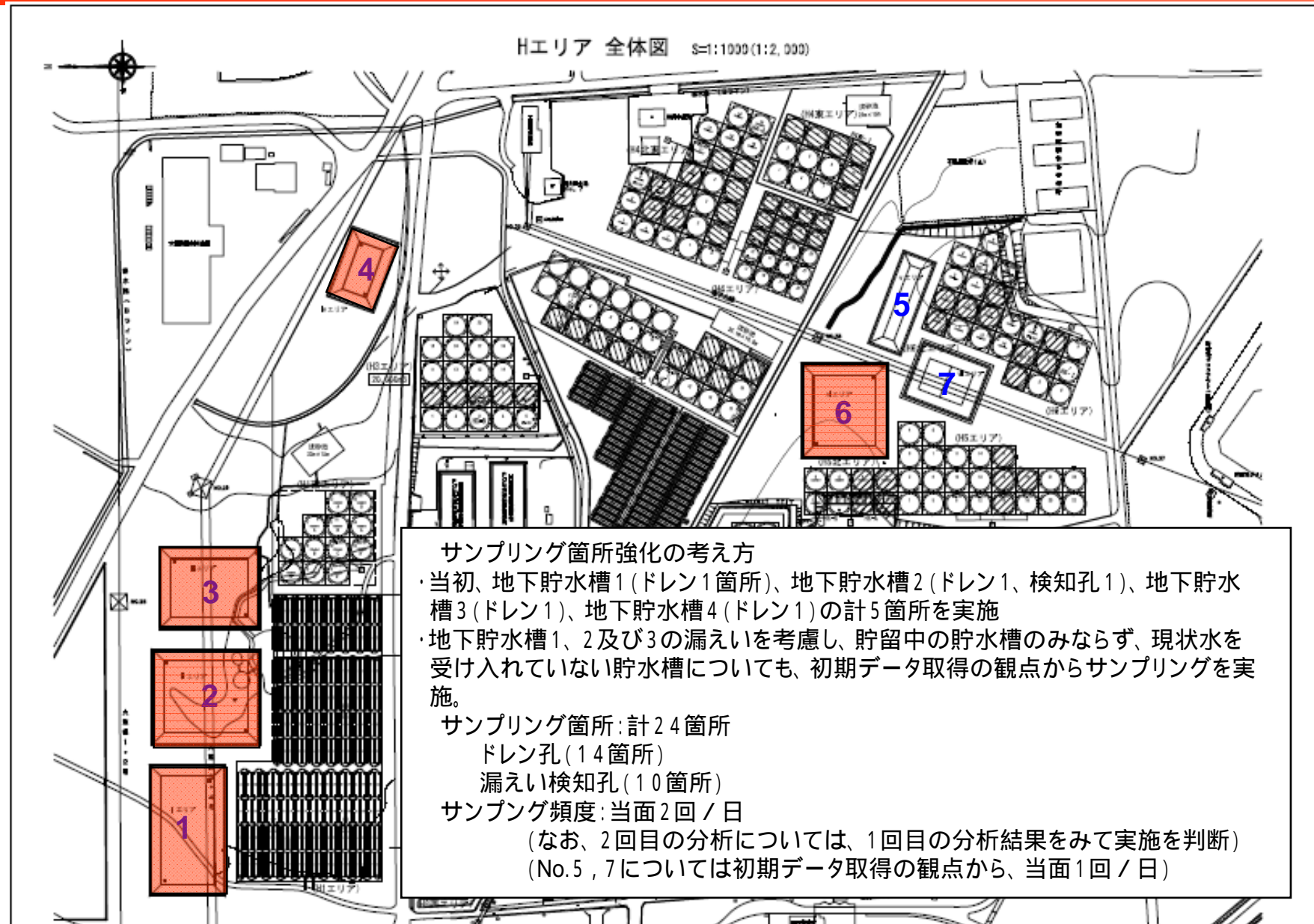
## 海側への汚染拡大の継続的な監視（既設、新設）

- 分析項目  
塩素濃度、全、トリチウム
- 分析頻度  
1回/週実施

# スケジュール



## (参考) 地下貯水槽の現状のサンプリング状況について



## (参考) 地下貯水槽からの水漏れに係る水質分析

### 【基本的な考え方】

- ・貯留中及び水を受け入れた貯水槽については、当面の間、2回/日サンプリングを実施する。  
 (なお、2回目の分析については、1回目の分析結果をみて実施を判断)  
 (水を受け入れていない貯水槽については、初期データ取得の観点から、当面の間、1回/日)

貯水槽No.	分析目的	採取箇所	塩素	核種	全	
2	【移送中】漏えい量評価のため、漏えい状況を確認する。 【移送完了後】水移送により漏えいが止まり、地下水で希釈されることを確認する。  漏えい水の詳細分析のため、全、H-3、Sr-90の分析も移送中、移送完了後に各1回実施。その後、H-3の分析を1回/週で実施。	ドレン孔	北東側	当面: 2回/日	当面: 2回/日	当面: 2回/日
			南西側	同上	同上	同上
		漏えい検知孔*	北東側	当面: 2回/日	当面: 2回/日	当面: 2回/日
			南西側	同上	同上	同上
1, 3	漏えいの進展状況を2回/日確認するが、移送が決定した場合には地下貯水槽No.2と同様の目的で分析を実施する。  漏えい水の詳細分析のため、全、H-3、Sr-90の分析も貯留中、移送完了後に各1回実施。その後、H-3の分析を1回/週で実施。	ドレン孔	北東側	当面: 2回/日	当面: 2回/日	当面: 2回/日
			南西側	同上	同上	同上
		漏えい検知孔*	北東側	当面: 2回/日	当面: 2回/日	当面: 2回/日
			南西側	同上	同上	同上
4, 6	当該貯水槽からの漏えい有無を確認する。  H-3の分析を1回/週で実施。	ドレン孔	北東側	当面: 2回/日	当面: 2回/日	当面: 2回/日
			南西側	同上	同上	同上
		漏えい検知孔*	北東側	当面: 2回/日	当面: 2回/日	当面: 2回/日
			南西側	同上	同上	同上
5, 7	水を受け入れていないため、当該貯水槽については、初期データ取得の観点からモニタリングを実施する。  H-3の分析を1回実施。	ドレン孔	北東側	当面: 1回/日	当面: 1回/日	当面: 1回/日
			南西側	同上	同上	同上

\* 分析可能な量が採取できた場合



# 地下貯水槽漏えいの原因調査 (No.2 貯水槽現地調査)

平成25年 4月 10日

東京電力株式会社

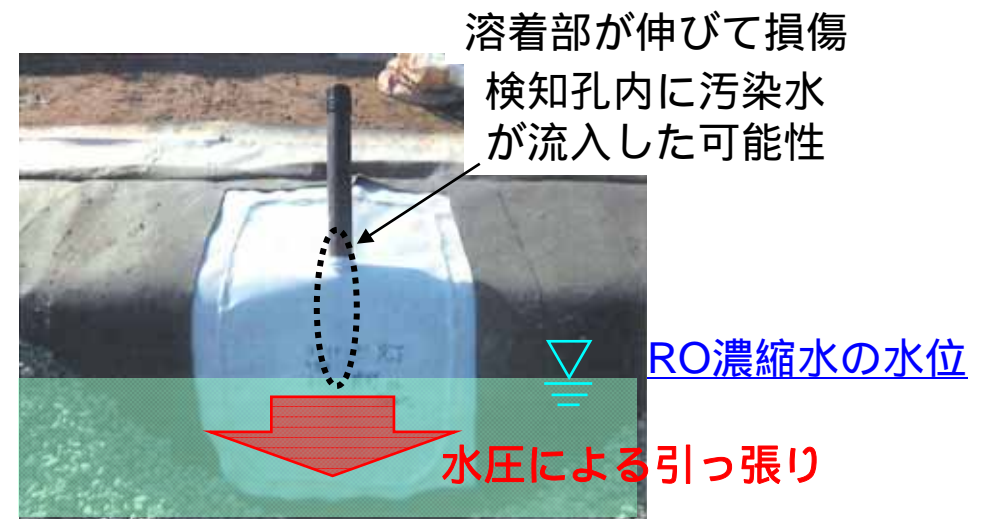
# 原因調査方針

## ■推定原因

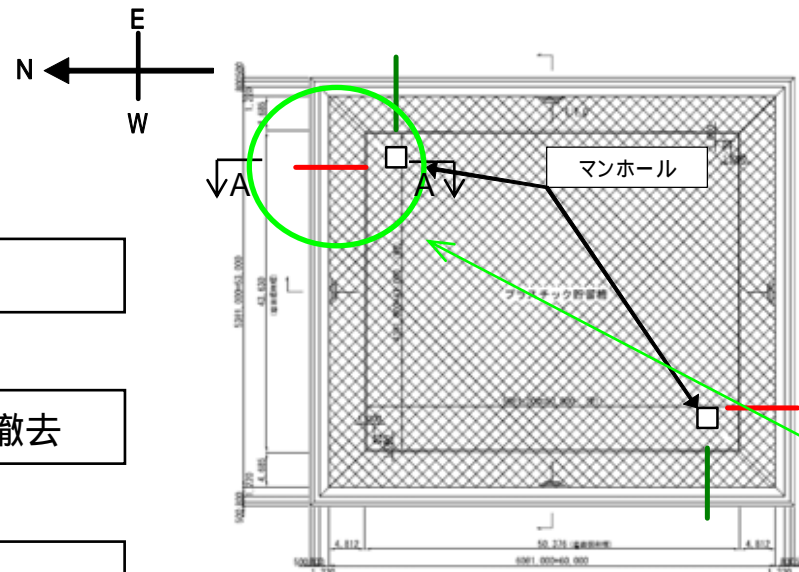
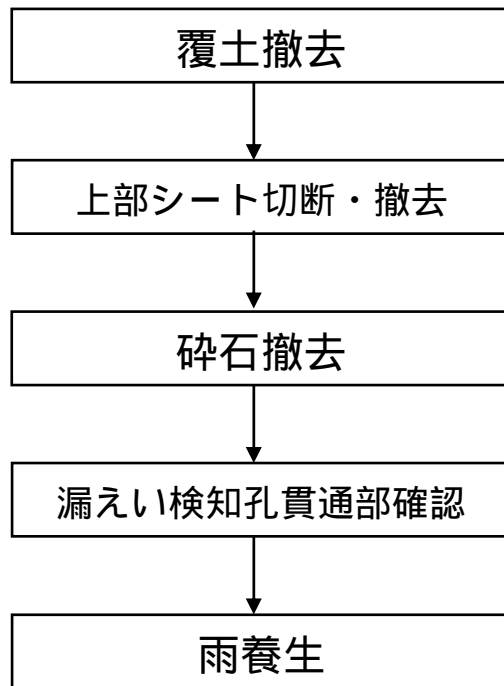
- 漏えい検知孔貫通部の不具合が可能性のひとつとして考えられる
- 高いベータ線が検出されている北東側付近で漏えいが発生している可能性が高い

## ■調査方針

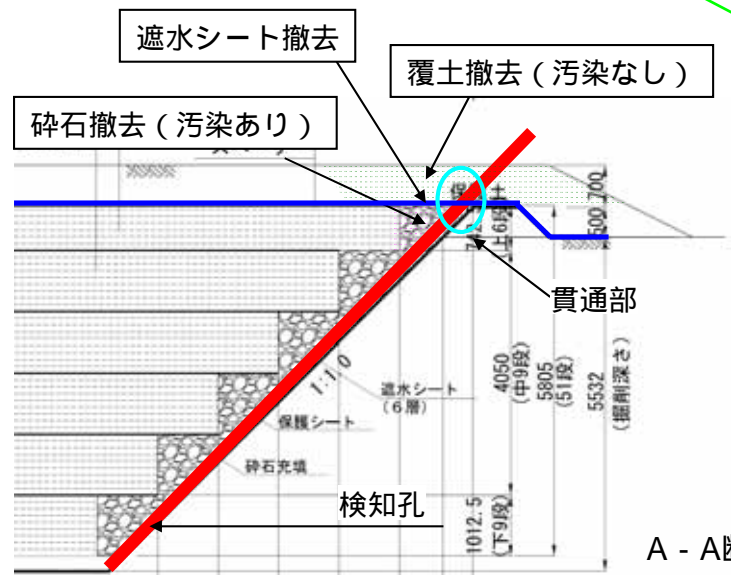
- 漏えい原因の可能性が高い北東側の漏えい検知孔貫通部の遮水シートや検知孔の状態を目視により確認する



# 調査方法



ドレーン孔 : —  
 検知孔 : —



A - A断面図

注) 汚染された撤去物はノッチタンク等の中に保管

# 実施工程

実施項目	4月												
	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
No.2地下貯水槽調査			[Redacted]										